

# 但馬管内の景気動向調査

2018年7～9月期実績・2018年10～12月期見通し

【特別調査 中小企業経営者と「人生100年時代」について】

## 調査の概要

1. 回答数：394（前回：385）
  2. 調査時点 2018年9月上旬
  3. 当金庫 営業店の調査員による、共通の調査表に基づく聴取り調査
  4. 分析方法：ディフュージョン・インデックス（D. I.）  
景気の各項目事項について、「増加」（良い）－「減少」（悪い）の構成比の差＝判断D. I.に基づく分析
- ※全国とは、信用金庫の中央機関である信金中金が全国の信用金庫から調査した調査の結果を示している。



但馬信用金庫

## 1. 概況（回答数394 前回385）

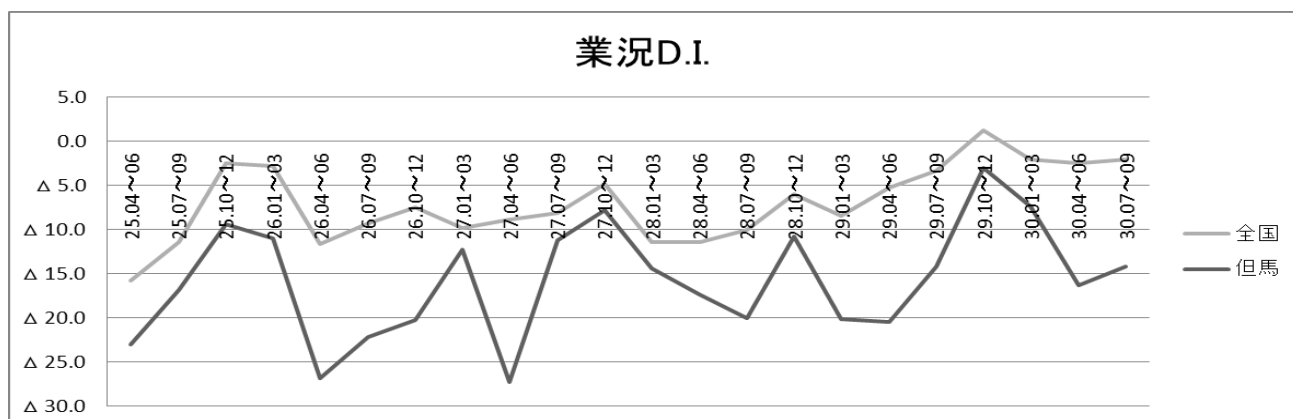
今回(7月～9月期)の業況D.I.は△14.2、前四半期比2.1ポイント改善し、小幅改善となった。前回調査では、全てのD.I.が悪化したが、今回は全般的に改善の兆しが見られる。収益面では売上額D.I.が△4.1と13.4ポイント改善した。収益D.I.は△3.0と12.8ポイント改善。資金繰りD.I.についても△16.2と3.8ポイント改善。借入金の難易度D.I.のみ△8.9と4.9ポイント悪化した。人手過不足D.I.は△25.2と引き続き大きなマイナスが続いているが、6.7ポイント改善した。全国比較では、但馬エリアを取り巻く経営環境の厳しさは続いており、次回(10月～12月)四半期予想でも、業況D.I.は△8.4ポイント(全国3.0を見込む)と引続き厳しい予想である。

全体	2018年7～9月期実績	前四半期比	2018年10～12月期予想
業況D. I.	△ 14.2	2.1	△ 8.4
前年同期比売上額D. I.	△ 10.2	1.8	-
前年同期比収益D. I.	△ 12.7	4.2	-
売上額D. I.	△ 4.1	13.4	2.0
収益D. I.	△ 3.0	12.8	△ 2.5
資金繰りD. I.	△ 16.2	3.8	△ 16.2
借入金の難易度D. I.	△ 8.9	△ 4.9	-
前期比残業時間D. I.	△ 0.5	0.5	4.6
人手過不足D. I.	△ 25.2	6.7	△ 30.4

業種名 \ 時期	2018年 4～6月	2018年 7～9月	2018年 10～12月(見通し)
総合			
製造業			
建設業			
卸売業			
小売業			
不動産業			
サービス業			

(この天気図は、過去1年の景気指標を総合的に判断して作成したものです。)

好調 ← → 低調



## 2. 製造業（回答数74 前回71）

今回の調査で業況 D.I.は△14.9 となり、前四半期比 10.6ポイント悪化した。要因は、売上額 D.I.と収益 D.I.の悪化に加えて、原材料価格 D.I.が前四半期比で 29.1ポイントの大幅悪化になったことが大きい。資金繰り D.I.・人手過不足 D.I.は引き続きマイナスだが改善している。設備投資 D.I.は悪化したものの 30ポイントを超える高い水準が続いており、設備投資には前向きな傾向が続く。10月～12月期予想では、総じて各 D.Iとも改善が見込まれるが、人手過不足 D.Iのみ悪化することが予想される。業況 D.I.では 8.1ポイントと大幅なプラス転換を見込む。

製造業	2018年7～9月期実績	前四半期比	2018年10～12月期予想
業況D.I.	△ 14.9	△ 10.6	8.1
前年同期比売上額D.I.	△ 9.5	△ 10.9	-
前年同期比収益D.I.	△ 14.9	△ 7.8	-
売上額D.I.	△ 18.9	△ 6.2	14.9
受注残D.I.	△ 13.5	△ 0.7	6.8
収益D.I.	△ 21.6	△ 14.6	9.5
販売価格D.I.	1.4	△ 0.1	10.8
原材料価格D.I.	21.6	△ 29.1	32.4
原材料在庫D.I.	2.7	△ 5.7	1.4
資金繰りD.I.	△ 10.8	6.1	△ 9.5
借入金の難易度D.I.	0.0	△ 7.1	-
前期比残業時間D.I.	△ 4.1	4.4	10.8
人手過不足D.I.	△ 31.1	6.9	△ 37.8
現在の設備D.I.	△ 13.7	10.6	-
設備投資D.I.	39.2	△ 7.3	-
来期設備投資D.I.	35.1	△ 11.3	-

## 3. 建設業（回答数83 前回87）

今回の調査で業況 D.I.は△3.7ポイントとなり、前四半期比 11.8ポイント改善した。前四半期比で施工高 D.I.・収益 D.I.・請負価格 D.I.が改善していることが要因であり、前年同期比でも売上額 D.I. 収益 D.I.は上振れしている。10月～12月期予想では、総じて各 D.I.の悪化が予想され、特に人手過不足 D.I.では△39.8を予想するなど、人手不足解消が大きな経営課題となっている。業況 D.I.は△14.6ポイントまで悪化する見通しである。

建設業	2018年7～9月期実績	前四半期比	2018年10～12月期予想
業況D.I.	△ 3.7	11.8	△ 14.6
前年同期比売上額D.I.	0.0	5.7	-
前年同期比収益D.I.	2.4	18.5	-
売上額D.I.	2.4	3.6	1.2
受注残D.I.	△ 3.6	△ 1.3	△ 6.0
施工高D.I.	7.2	7.2	△ 2.4
収益D.I.	7.2	16.4	△ 7.2
請負価格D.I.	0.0	18.4	△ 3.6
材料価格D.I.	15.7	△ 11.9	14.5
在庫D.I.	△ 2.4	3.4	△ 6.0
資金繰りD.I.	△ 15.7	△ 6.5	△ 18.1
借入金の難易度D.I.	△ 2.4	△ 4.8	-
前期比残業時間D.I.	4.8	2.5	0.0
人手過不足D.I.	△ 36.1	△ 2.4	△ 39.8
現在の設備D.I.	△ 6.0	3.2	-
設備投資D.I.	25.3	△ 3.4	-
来期設備投資D.I.	24.1	△ 5.8	-

## 4. 卸売業（回答数45 前回31）

今回の調査で業況 D.I.が△42.2ポイントとなり、2四半期比連続で 10ポイントを超える悪化となった。要因は、売上額 D.I.・販売価格 D.I.・仕入価格 D.I.・在庫 D.I.などが総じて悪化したこと、特に借入金の難易度 D.I.が 12.3ポイントも悪化して△15.6となったことによる影響が大きい。人手過不足 D.I.は過不足無し水準となっているが、10月～12月期予想では、人手過不足 D.I.の悪化が見込まれる。業況 D.I.は 28.9ポイント改善の△13.3ポイントまで改善する見通しである。

卸売業	2018年7～9月期実績	前四半期比	2018年10～12月期予想
業況D.I.	△ 42.2	△ 10.0	△ 13.3
前年同期比売上額D.I.	△ 15.6	△ 12.3	-
前年同期比収益D.I.	△ 15.6	0.6	-
前年同期比販売価格D.I.	20.0	0.6	-
売上額D.I.	△ 15.6	△ 2.7	6.7
収益D.I.	△ 8.9	23.4	6.7
販売価格D.I.	15.6	△ 3.8	6.7
仕入価格D.I.	15.6	△ 3.8	13.3
在庫D.I.	11.1	△ 5.0	8.9
資金繰りD.I.	△ 8.9	0.8	△ 13.3
借入金の難易度D.I.	△ 15.6	△ 12.3	-
前期比残業時間D.I.	0.0	0.0	11.4
人手過不足D.I.	0.0	22.6	△ 8.9
現在の設備D.I.	△ 8.9	0.8	-
設備投資D.I.	26.7	△ 15.3	-
来期設備投資D.I.	22.2	△ 16.5	-

## 5. 小売業（回答数 45 前回 58）

今回の調査で業況 D.I. が△37.8 ポイントとなり、前四半期比 6.2 ポイント悪化した。但馬経済の厳しい状況から販売価格 D.I.・借入金の難易度 D.I.が悪化したことが要因であるが、一方で売上額 D.I.・収益 D.I.は 2 桁のプラスであり、改善した項目もある。10 月～12 月期予想では、収益 D.I.が引き続き厳しい状況が予想されるが、一方で売上額 D.I.・販売価格 D.I.・資金繰り D.I.の改善から、厳しい状況に変化はないものの業況 D.I.は若干改善する見通しである。

小売業	2018年7～9月期実績	前四半期比	2018年10～12月期予想
業況D. I.	△ 37.8	△ 6.2	△ 34.1
前年同期比売上額D. I.	△ 28.9	2.1	-
前年同期比収益D. I.	△ 31.1	6.8	-
前年同期比販売価格D. I.	11.1	△ 13.0	-
売上額D. I.	△ 15.6	15.5	△ 11.1
収益D. I.	△ 6.7	27.8	△ 15.6
販売価格D. I.	4.4	△ 14.5	6.7
仕入価格D. I.	22.2	△ 5.4	11.1
在庫D. I.	6.7	3.2	△ 2.2
資金繰りD. I.	△ 40.0	△ 7.2	△ 28.9
借入金の難易度D. I.	△ 26.7	△ 21.2	-
前期比残業時間D. I.	△ 8.9	△ 5.4	△ 2.2
人手過不足D. I.	△ 15.6	10.8	△ 15.6
現在の設備D. I.	△ 13.3	2.5	-
設備投資D. I.	22.2	△ 7.1	-
来期設備投資D. I.	26.7	2.5	-

## 6. 不動産業（回答数 13 前回 12）

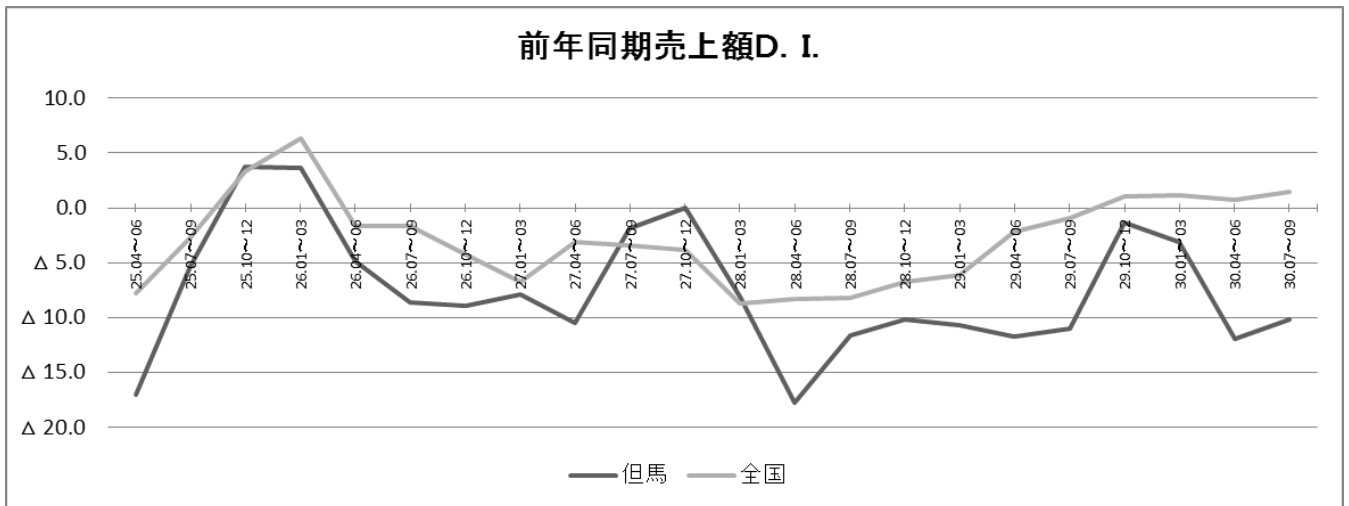
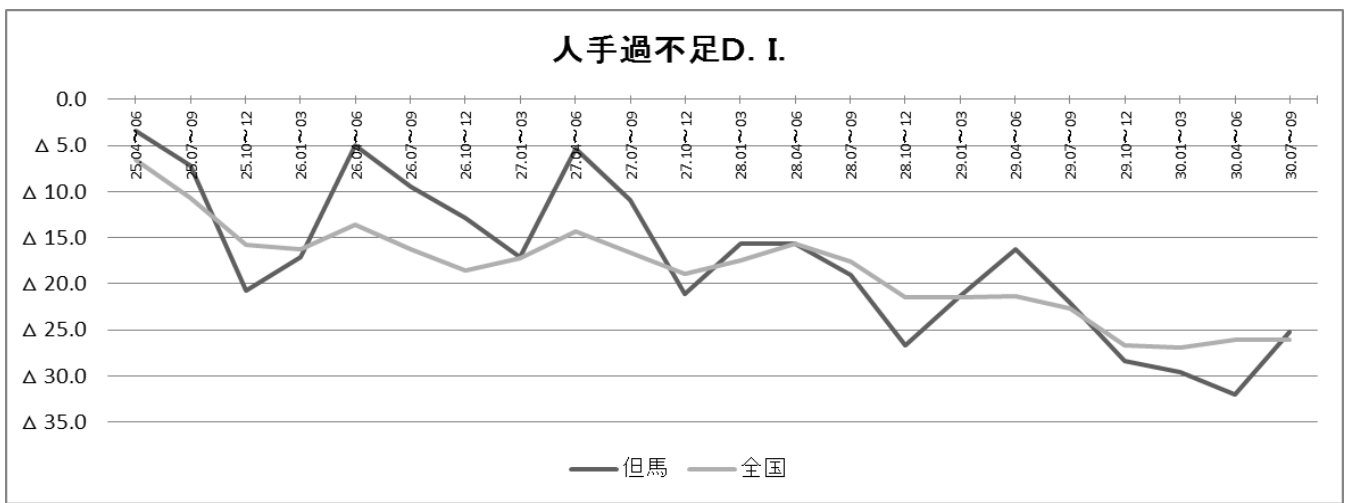
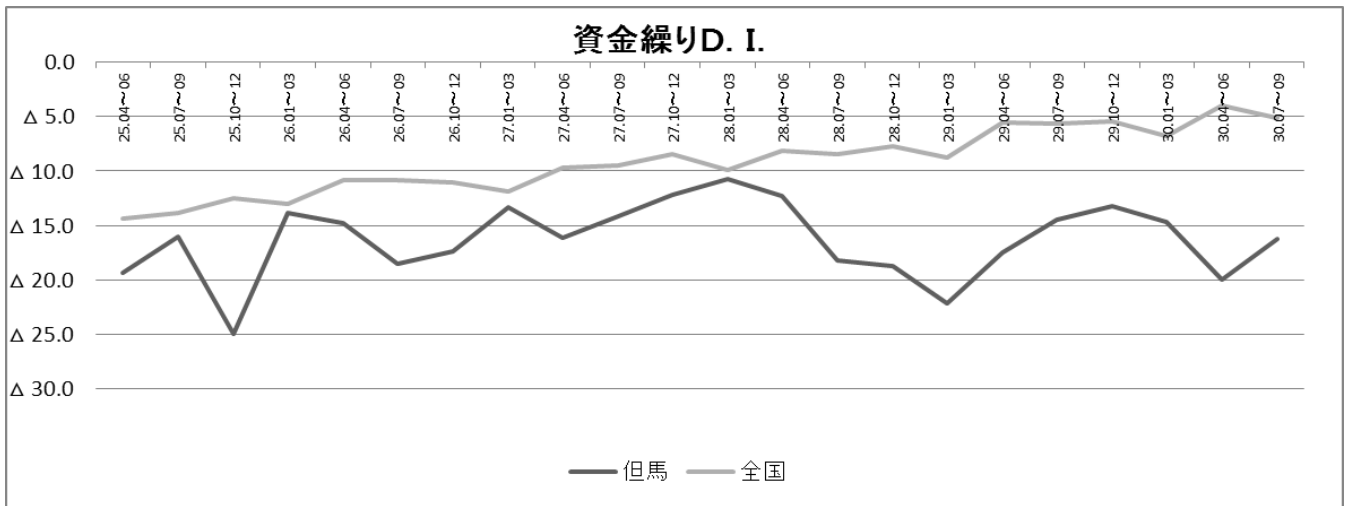
不動産業の業況 D.I.は△7.7 ポイントとなり、前四半期比 7.7 ポイントの悪化となった。要因は、売上額 D.I.・収益 D.I.が悪化したことによるもの。その一方で、在庫 D.I.・資金繰り D.I.・人手過不足 D.I.などでは改善している。10 月～12 月期予想では、販売価格 D.I.は悪化が予想されている。在庫 D.I.についても 10 ポイントの悪化が見込まれる。これらの影響により、業況 D.I.では△23.1 ポイントまで悪化する見通しである。

不動産業	2018年7～9月期実績	前四半期比	2018年10～12月期予想
業況D. I.	△ 7.7	△ 7.7	△ 23.1
前年同期比売上額D. I.	△ 30.8	△ 22.4	-
前年同期比収益D. I.	△ 23.1	△ 6.4	-
売上額D. I.	0.0	△ 8.3	0.0
収益D. I.	△ 7.7	△ 16.0	△ 7.7
販売価格D. I.	0.0	0.0	△ 9.1
仕入価格D. I.	0.0	0.0	9.1
在庫D. I.	△ 10.0	8.2	△ 20.0
資金繰りD. I.	7.7	7.7	7.7
借入金の難易度D. I.	0.0	0.0	-
前期比残業時間D. I.	8.3	8.3	0.0
人手過不足D. I.	△ 7.7	9.0	△ 7.7

## 7. サービス業（回答数 134 前回 126）

今回の調査で業況 D.I. が△3.7 ポイントと、前四半期比 10.7 ポイント改善した。要因は、売上額 D.I.・収益 D.I.・料金価格 D.I.・材料価格 D.I.・資金繰り D.I.など各 D.I.が軒並み改善したためである。全国的にも人手過不足 D.I.は不足感が高い状態が続いており、引き続き大きな経営課題となっている。10 月～12 月期予想では、料金価格 D.I.・材料価格 D.I.の改善が見込まれるが、資金繰り D.I.・人手過不足 D.I.は悪化することが予想される。その結果、業況 D.I.では 1.5 ポイントの悪化の△2.2 となる見通し。

サービス業	2018年7～9月期実績	前四半期比	2018年10～12月期予想
業況D. I.	△ 3.7	10.7	△ 2.2
前年同期比売上額D. I.	△ 6.7	10.7	-
前年同期比収益D. I.	△ 12.7	0.8	-
売上額D. I.	7.5	36.0	△ 1.5
収益D. I.	4.5	19.6	△ 4.5
料金価格D. I.	6.0	17.9	15.7
材料価格D. I.	18.7	10.7	26.9
資金繰りD. I.	△ 16.4	11.4	△ 17.9
借入金の難易度D. I.	△ 10.4	4.2	-
前期比残業時間D. I.	0.8	△ 0.0	4.5
人手過不足D. I.	△ 28.6	5.0	△ 34.8
現在の設備D. I.	△ 18.7	9.3	-
設備投資D. I.	23.1	△ 10.2	-
来期設備投資D. I.	25.4	△ 8.8	-

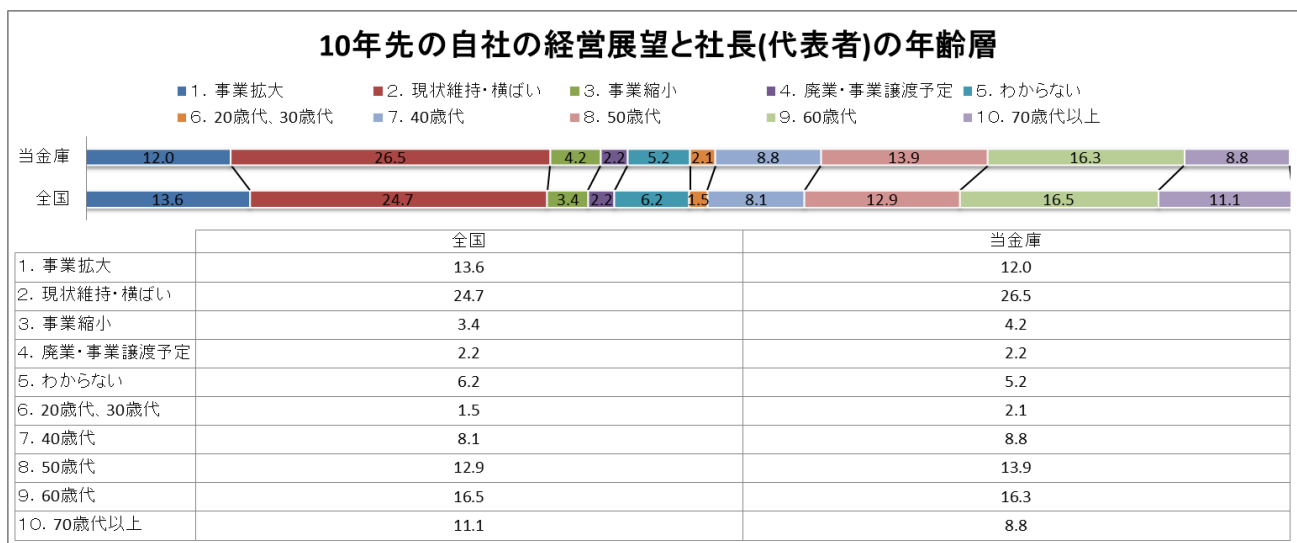




# 《特別調査》中小企業経営者と「人生100年時代」について

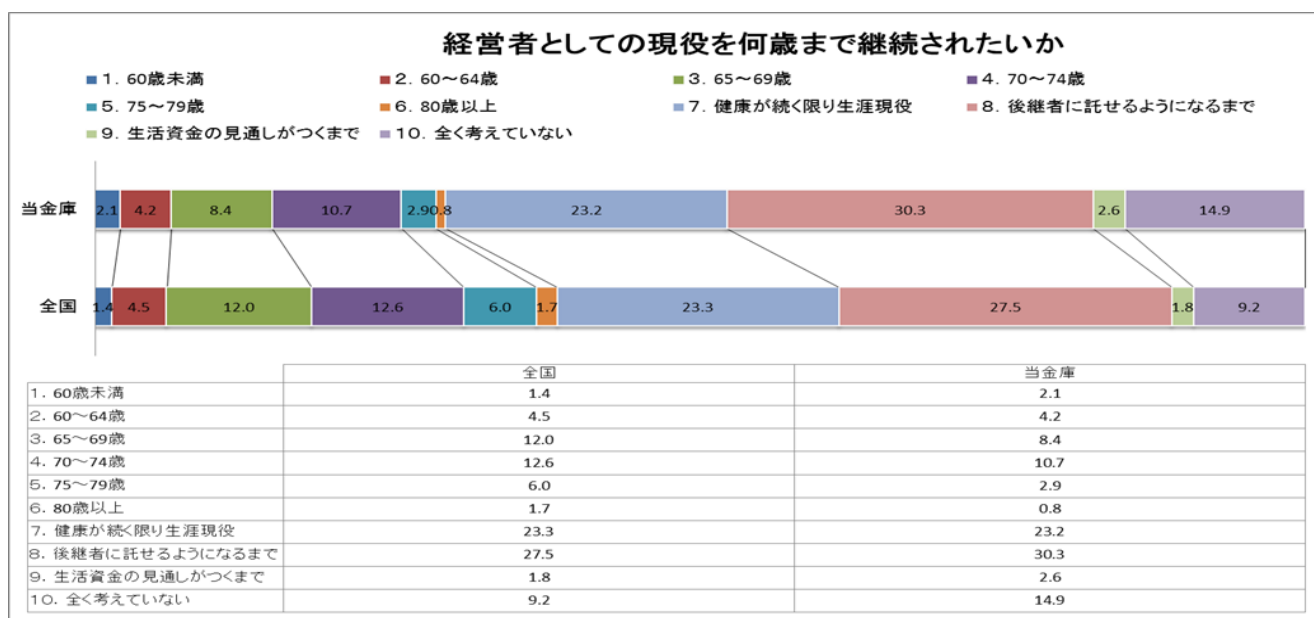
## 【問1】10年先の自社の経営展望と社長(代表者)の年齢層

10年先の自社の経営展望については、「現状維持」との回答が当庫26.5%、全国24.7%と全国と比べて若干高い。一方で、「事業拡大」については、当庫12.0%、全国13.6%と若干低い。「事業縮小」は当庫4.2%、全国3.4%であるが大きな差はない。自社の経営展望については、当庫と全国比較で著しい差異は見出せなかった。社長(代表者)の年齢層をみると、全国と比べ当庫は「20歳代、30歳代・40歳代」の割合が高い。一方で、「50歳代」については、当庫13.9%、全国12.9%と高めに出ている。「70歳代」以上では、当庫8.8%、全国11.1%と全国平均よりも低い。



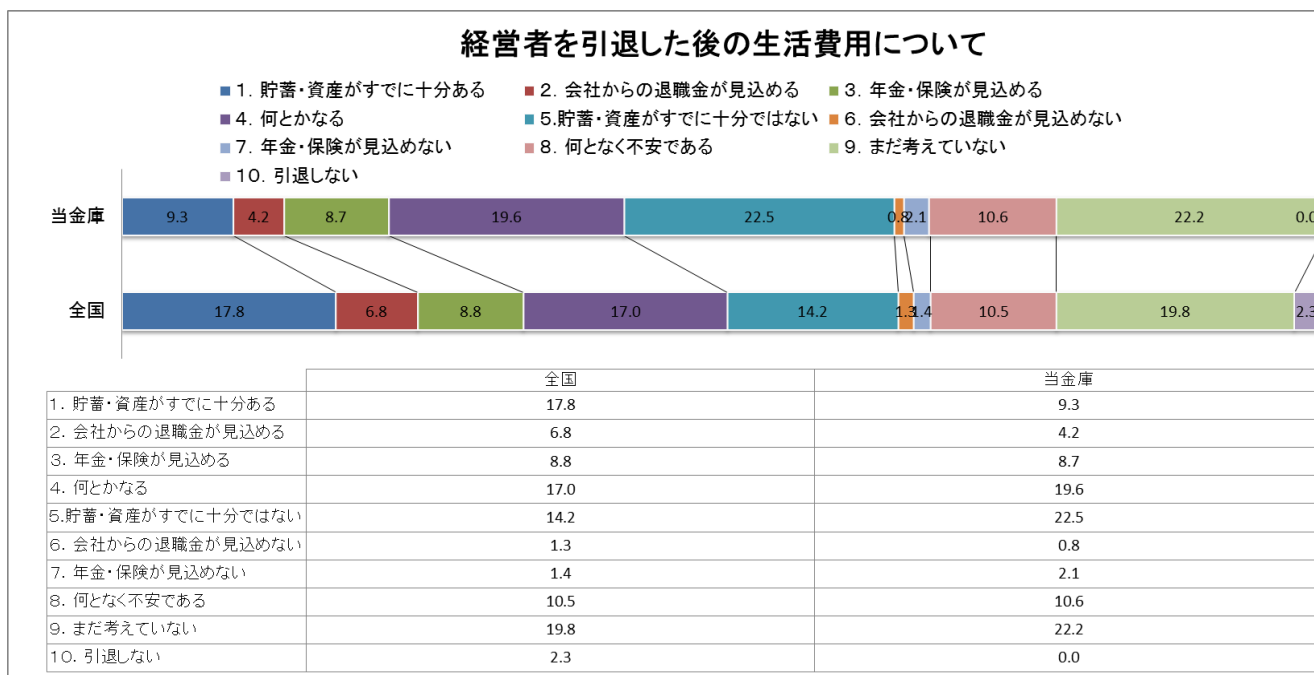
## 【問2】経営者としての現役を何歳まで継続されたいか

経営者としての現役を続ける目処については、「具体的な年齢の目処がある」と回答した合計が当庫29.0%、全国38.2%と全国と比べ引退を考えておられない経営者の割合が高かった。「具体的な年齢の目処はない」が当庫71.0%、全国61.8%であった。内訳を見ると「後継者に託せるようになるまでは現役」や「健康が続く限り生涯現役」という回答が多く、「まったく考えていない」という回答割合も当庫14.9%、全国9.2%と高かった。



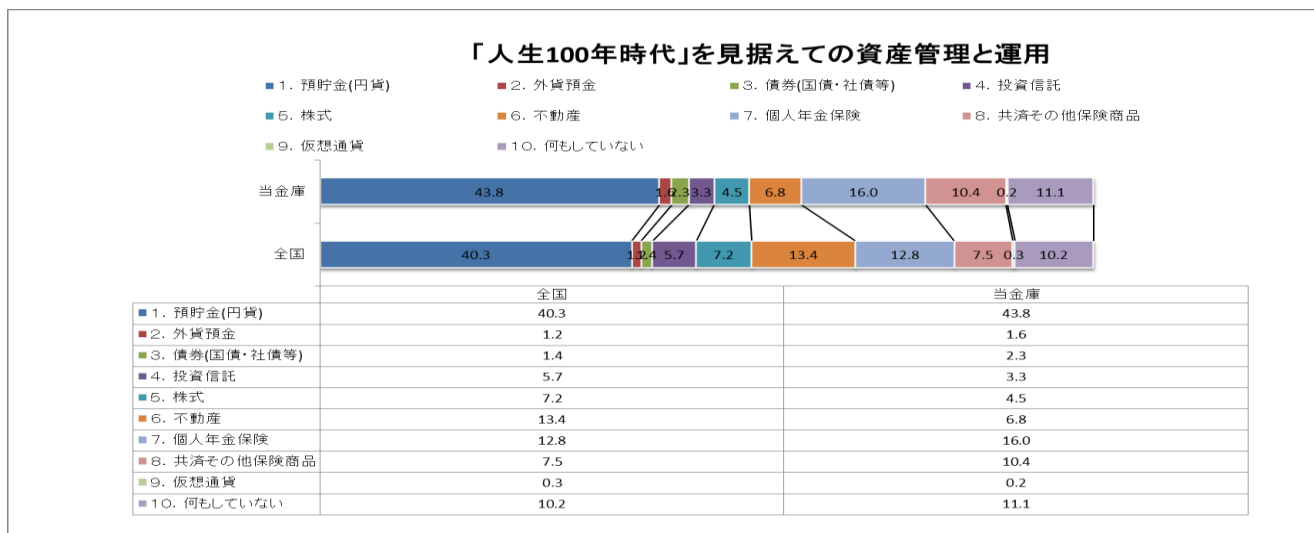
### 【問3】 経営者を引退した後の生活費用について

経営者を引退した後の生活資金については、「十分だと思う」が当庫 41.8%、全国 50.4%と全国と比べて差が広がった。対して、「まだ不十分だと思う」は当庫 36.0%、全国 27.4%と引退後の生活を不安視する回答が多かった。その内訳を見ると、「貯蓄・資産がすでに十分ではない」が当庫 22.5%、全国 14.2%と引退後の生活資金の確保に課題があることが考えられる。また、「まだ考えていない」が当庫 22.2%、全国 19.8%であった。



### 【問4】 「人生100年時代」を見据えての資産管理と運用

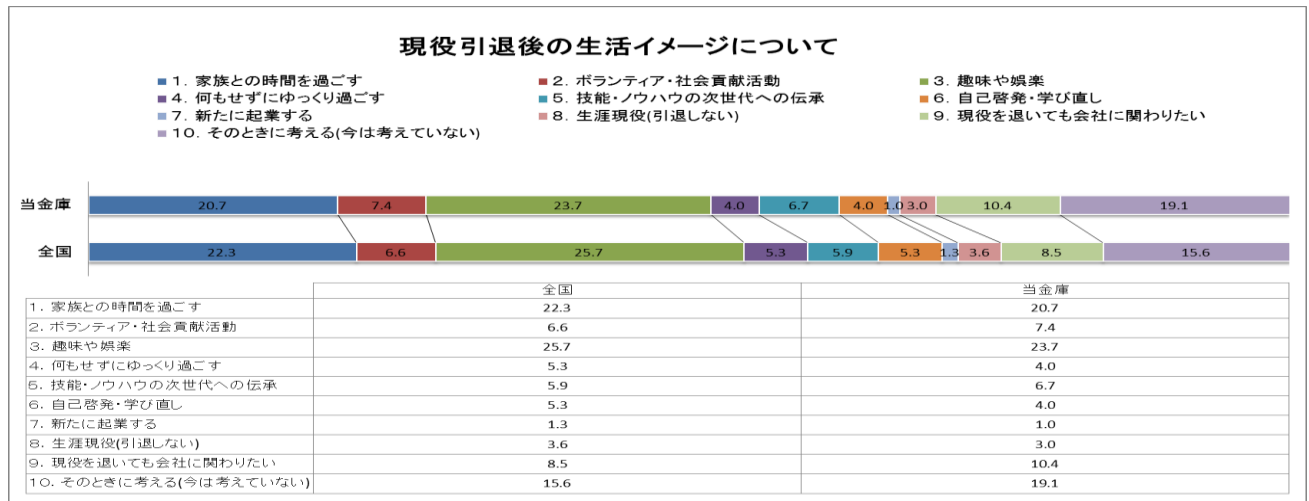
経営者個人としての資産管理・運用については「預貯金(円貨)」による運用が当庫 43.8%、全国 40.3%と、他の回答を大きく引き離れた。以下、「個人年金保険」と回答した割合が、当庫では 16.0%と高かったが、全国では 12.8%であった。その他、「共済その他保険商品」と回答した割合が当庫 10.4%、全国 7.5%と高かった。なお、「外貨預金」「債券」「投資信託」「株式」といったいわゆるリスク資産での資産運用を考えているとの回答割合は、これらの合計が当庫 11.7%、全国 15.5%と資産運用に関しては、少なかった。「不動産」についても、当庫 6.8%に対し、全国 13.4%と差があった。





## 【問5】引退後の生活イメージについて

現役を引いた後の生活イメージについては、「趣味や娯楽」が最も回答数が多く、当庫 23.7%、全国 25.7%と全国の回答割合の方が若干高かった。以下、「家族との時間を過ごす」の回答については当庫 20.7%、全国 22.3%と当庫の回答割合の方が若干低かった。特徴的な回答としては、「現役を退いても会社に関わりたい」・「そのときに考える(今は考えていない)」の回答が当庫の方が全国よりも高く、企業経営に関わり続けたいと考える積極的な姿勢の経営者が多いといえる。



以上

### 参考文献

- ・ 信金中央金庫 地域・中小企業研究所 「第173回全国中小企業景気動向調査」